

数年前から消費税が十パーセントに引き上げられた。昔は消費税も無かったと聞く。私はなぜ消費税がつくのか不思議に思いながら物を買っていた。

「森林環境税、二〇二四年導入」。ある日、何気なくニュースを眺めていると、そんな記事が目に入った。私は、また増税か、と思いながら記事を読んだ。森林環境税は一人年間千円の納税で、それらは全て森林保護などに使われるようだ。

私が住むのは山間の集落だ。昔は林業が盛んで、私の祖父も林業をしていたそう。しかし今では林業をする人は居らず、残った山も個人で管理するのは難しく、山を売る人もいる。そうして売られた山では木々が切り倒され、太陽光パネルが置かれていたりするのを見た。森林が減って地球温暖化が進んでいるとも聞いた。

私には森林環境税はとてもいい話に思えた。森林環境税によって、林業従事者も増え、同時に環境が守られて地球温暖化対策にも繋がる。しかし調べていくと、批判的な意見も多いことが分かった。私がこの税に賛成できたのは、身近に山があり、身近に森林にある問題を感じるからできるからだ。この税を納めることでどのような利益がもたらされるのかが安易に理解できた。一方で、山が身近にない人からすれば、森林にある問題も理解しにくく、その上この税は直接的な利益があるわけでもない。結果、意味のない税という解釈となり、反対されるのではないだろうか。

自分の身近にない税だと、直接的な利益があるわけでもなく、その税がどのように使われているのかも分からず、税を納めることにも気が進まない。そうならないためにも、どのような問題があって、それを解決させるために税がどのように使われているのかを知り、税を身近に感じる必要がある。そうすることで、自然と税に対しても貢献的になってくるものだと思う。直接的な利益がなくとも必ず社会のどこかで使われて、自分を含めた社会全体の利益となる。

私は森林環境税を知ったのをきっかけに税の身近さを感じ、自分が納める税である消費税などの使われ方を調べ、税の必要性などを理解できた。私も成人すれば、多くの税を自分自身で納めることになる。そのときも、一つ一つの税がそれぞれどのように使われているのかを知って税を身近に感じることで、税の良さと大切さをより深く感じるができるのだと思う。

税の負担は大きいもの。しかし、今の社会を維持し、豊かにしていくためには無くてはならないものだ。森林環境税など、すぐに私達に還元されないものもある。しかし、未来の私達や子孫が豊かな生活を送るために必要なものだ。税金は私達の生活を豊かにする。同時に、その豊かさを繋げ発展させるための未来への投資でもあるのだ。